

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 1 章 番外編 パート 1
黙示は交わりの中で示される

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを、文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や、字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在、目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

詩篇 119:105

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://juncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録 1 章 9 節から。

「私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。私は、主の日に御霊に感じ、私のうしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。その声はこう言った。『あなたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ベルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。』

そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見えた。それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。その頭と髪の毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のようであった。その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出ており、顔は強く

照り輝く太陽のようであった。

それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。『恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。』(黙示録 1:9-18) アーメン。

ヨハネの立場になって考えてみて下さい。年齢 100 歳。あなたは 100 歳です。骨がきしみ、腰は痛む 100 歳のあなたに、ローマ皇帝ティトウスによって送り込まれた兵士たちが襲ってくるのです。ティトウスはあなた個人を指名して、煮えたぎる油の中に入れてよう命じた。彼はクリスチャンを憎んでおり、あなたの番号を知っている。あなたは初期の教会のリーダーで、彼はあなたを追いかけ、あなたの 100 歳になる老体を捕らえる。そして、煮えたぎる油に入れて、文字通り、あなたが揚げられるのを見たいと願う。

その時、教会史によると、驚くべきことが起こります。あなたは死なない。それで、あなたは油から引き上げられる。死なないから。ティトウスはそれを聞き「上等だ。ならば、彼をパトモス島へ送れ。そうすれば、消えてしまうだろう。」と言って実行します。彼らはあなたを連れて行き、船に乗せて、地中海を、あなたがいるトルコから 80 km 離れた場所へ行き、岩だらけの不毛の地、神に見捨てられたような島に置き去りにするのです。

思い違いをしてはいけません。このパトモスという島は、タヒチでもなければマウイ島でもない。ここは、歴史的に植物が育たない島でした。数人の兵士たちはそこに留まりましたが、基本的に、囚人は死ぬために海岸で置き去りにされるのです。消滅するように。死刑です。

ということで、あなたは今、島の上。地中海の強い陽射しが、日々容赦なくあなたに照り付ける。食べ物ほとんどなく、木陰もない。その時突然、トランペットのような声を聞くのです。あなたならどうしますか？私ならきっと、「なんてこった…」「年を取って、煮えたぎる油には入れられたし、傷だらけで死にそうだ。次は何なんだ…」これが自然でしょう？「なんてこった…」「俺もとうとうガタが来たか…」「俺も遂に狂ってしまったか…」「このトランペットのような声…」

でも、ヨハネはこのようには反応しませんでした。9 節にはこう書かれています。

「私ヨハネは、神のことばとイエスのあかしのゆえに、パトモスという島にいた。」(黙示録 1:9)

彼が伝えたイエス・キリストの証しのために、彼は島にいたのです。そして、背後にトラン

ペットのような声を聞いた時、黙示録によると

「そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。」(黙示録 1:12)

ヨハネは振り向き、状況を確認しました。彼は事実を観察し、その結果、イエス・キリストと対面するのです。そして、イエスの姿が詳細に描写されています。しかし、ここでは17節に注目して下さい。

「それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。」(黙示録 1:17)

彼は心底驚き、驚嘆して、完全に我を失い、倒れ落ちました。その時、地面に崩れ落ちた時、彼は主に触れられるのです。

しかし、彼は右手を私の上に置いてこう言われた。『恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。私は死んだが、見よ、いつまでも生きている。』(黙示録 1:17-18)

ヨハネは主に触れられたのです。

順番を見てみましょう。声を聞き、見ようとして振り向き、見て、そして、崩れ落ちた。その時、彼は触れられ、力を得て、使命を与えられた。「ヨハネよ。これからわたしが伝えることを書き記しなさい。わたしがあなたに伝えるメッセージ、あなたを通して他の人に伝えるべきメッセージを。」

皆さんに気づいてほしいのは、御霊の語りかけに耳を傾けることが、いかに大切かということです。ここで、ヨハネは振り向いて、聞こえる声を確認しようとした。そして見つけ、黙示へと導かれたのです。更に深い理解、イエス・キリストへの感謝の気持ちの再確認へと。皆さん、これが、この書の全てです。黙示録。今、私たちの目の前にあるこの書は、聖書預言を主な目的として与えられたものではなく、イエス・キリストご自身を黙示するものなのです。この事実を知らずにいると、この書はただ混乱を招くだけで、あなたに大きな影響を与えるものではなくなってしまいます。一番はじめにも、こう書かれています。

「イエス・キリストの黙示」(黙示録 1:1)

これは私たちに、イエス・キリストについて新しい啓示を与えるためのものなのです。なぜか？それは、私たちがイエス・キリストについての黙示を受けると、彼によって再び力を得ることができるからです。ヨハネがそうであったように。

私が個人的に、一番適切なリバイバル（復活）の表現だと思うのは、

この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自身を弟子たちに現わされた。

(ヨハネの福音書 21章1節)

何の後ですか？十字架の後、復活の後、イエスは弟子たちに再びその姿を現されました。そして、弟子たちは大きな衝撃を受けたのです。復活と言えばコレですよ、皆さん。イエスに再び会える。勿論、私たちは十字架も信じているし、復活についても知っています。しかし、彼が何をして、どういうお方なのかを信じた後、主は、私やあなたに黙示を与えるために、何度も何度もご自身を現そうとして下さる。私たちに個人的な指針を与えるために、再び違った形でご自身を現して下さいます。

この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自身を弟子たちに現わされた。

(ヨハネ 21:1)

私が言いたいのは、黙示録を学ぶにあたって、過去の歴史を辿って、当時イエスがなされたことに感激するだけでなく、聖書が私たちに語っているように、イエスは今の時代も同じだということ。

イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。(ヘブル 13:8)

つまり、ヨハネはパトモス島の上で、私たちに黙示を与えていると言いたいのです。

なぜかと言うと、ペンテコステの日に、ペテロが言いましたね。

今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているのではありません。これは、預言者ヨベルによって語られた事です。

『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。』

(使徒行伝 2:17)

「終わりの時には、更に顕著になる。わたしの霊が働き、若者は預言をし、老人は夢を見て、わたしからの黙示、わたしの黙示が与えられる。これが、終わりの時代において、わたしが望むことだ。」と、主は、はっきりと言われます。

ここで、一緒に考えてみましょう。イエスの黙示について語る時、イエスはこの世に人として来られ、赤ん坊となってベツレヘムで生まれたということ、人々がベツレヘムのその赤ちゃんの所へ導かれたという黙示を、クリスマスの話を聞くたびに、大勢の人たちが受けているのです。

野宿をしていた羊飼。彼らが羊の夜番をしていると、主の使いが現れて、救い主が生まれたからベツレヘムに行くようにと言います。「なんてこった！」「羊とばかり一緒にいたから…」「芝生ボケしてしまったよ！」「止めてくれ！はるばるベツレヘムまで行くわけがない！」

「何かの間違いさ。」と言うこともできました。が、彼らはそうは言わずにベツレヘムへ行き、そして、喜びに満たされました。

東方の博士たち。彼ら独自の天文学を使って星を見ていたら、それまでに見たこともないような星が突然現れました。彼らは無視することもできたのに、その星に付いて、らくだに乗って山を越え、砂漠を越えて2年の道のりを行いました。反論が出てもおかしくない。「止めておけ！」と誰かが言ったかもしれない。「ただの天体が並んで、そのように見えるだけさ。」「そんなことに振り回されるな。」しかし、彼らは「行く。」と言い、らくだに乗り、砂漠の中を2年かけて旅したのです。

ナザレの若い大工、体を張って働く立派な若者、ヨセフ。彼の立場に立って考えてみて下さい。婚約者が言うのです。「あなたに伝えないと…お腹に赤ちゃんがいるの。」自分が父親でないことは彼が知っています。「なんてこった…」更に彼女は続けます。「怒らないで下さい。この子は、人によってではなく、神によって奇跡的に宿ったのです。」もし、あなたがヨセフなら何と言いますか？私ならこう言うでしょう。「残念だけど…」「めちゃくちゃだよ。」しかし、ヨセフは眠りに就きました。続きは知っていますね。その夜、御使いが来て言いました。「彼女を信じなさい。」「これは神によることです。彼女を妻として迎えなさい。」あなたがヨセフならどうしますか？「そんなアホな！めちゃくちゃだ！」しかし、ヨセフもまた、東方の博士たちや夜番の羊飼いたちと同様に、夢で与えられた黙示に応じたのです。黙示を察して応え、そして、歴史を創り出しました。

マリアはどうですか？御使いがやって来て言います。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」(ルカ 1:28)

「こわがることはない。マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。ご覧なさい。あなたのみごもって、男の子を産みます。」(ルカ 1:30-31)

マリアは何と言いましたか？

「どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」(ルカ 1:38)

あなたなら何と言いますか？御使いの訪問に疑いを持ちませんか？私なら恐らく疑ってしまうでしょう。

マリア、ヨセフ、博士たち、羊飼いたち。物語は続きます。

ご存じの通り、生まれた赤ん坊は宮に連れていかれ、そこで献児されます。その時、シメオンという年老いた預言者は

「主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。」(ルカ 2:26)

メシア！イスラエルを救う方がやって来る！聖霊が「今日こそ、その日だ！」と言った時、シメオンは間違いなくこう考えたことでしょう。「すばらしい！軍隊が押し寄せてくる！」戦車の車輪の音を響かせながら、メシアがやって来て、ローマ皇帝のくびきを打ち砕くのを期待していたことでしょう。なのに、宮に入ってきたのは、15,6歳の少女と大工の若者に抱かれた小さな赤ん坊。しかも聖霊は、この子がそうだと言う。シメオンは「そんなワケがない！」と疑うこともできました。「自分が想像していたのとは全く違う！」と言うこともできたのです。しかし、彼は信じて、赤ん坊のイエスを抱き、その日、イエスを主に捧げました。

時間が許せば、ゼカリヤもエリサベツも、まだ他にもイエス誕生の物語に関わる人はたくさんいます。幻、感覚、黙示、御使いの訪問、夢。人々はイエスを認識するため、これらを通してベツレヘムへと導かれました。

それでも分からなかった集団が一つありました。物語の中で、辿り着かなかった人々、全く理解できなかった人たちは 聖書の研究者たちです。面白いですね。エルサレムで聖書を隅から隅まで学んでいた人々、詳細に知っていた人たち。つまり、教師、生徒、聖書博士です。聖書を読んだことがある人たち、預言を知っていた人たちです。なぜそれがわかるか？聖書を読んで下さい。東方の博士たちがやっとうエルサレムに着いて、「東方でメシアの星を見ました。」と言った時、「キリストはどこで生まれるのか？」と問いただしたら、聖書学者たちは「ユダの地、ベツレヘム。」と言ったのです。(マタイ 2:5) 彼らは聖書の預言をとて詳しく知っていました。彼らは、聖書のミカ書に、メシアがベツレヘムで生まれると書いてあることを知っていました。メシアが現れる時期が、ダニエル書 9 章に書かれてあることを知っていました。メシアが奇跡によって、若い処女から生まれるというイザヤ書の預言も知っていました。何度も言いますが、彼らはイザヤ書の預言から知っていたのです。まさに幼子イエスがエジプトからイスラエルに連れ戻されたように、メシアもエジプトに行き、そこから戻されてくることを。

つづく

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7